

【高等学校の部・最優秀賞】

白い鳩に願いをたくして

沖縄県立向陽高等学校 三年
照喜名 流風

耳をすませば聞こえてくる
風の音 蝉の声 海原の波の音
ウージ畑がザワザワと音をたてている
海辺の丘の青々としげる草の上に
私はいた
雲一つない 五月晴れの空
すみきつた空に浮かぶ黒影が
視界に入った
軍用機の余韻と共に
祖母から伝受した
過去の記憶へ時は戻された
この美しい島の過去へ：

耳をすませば聞こえてくる
激しい爆撃音 人々の叫び声
風も蝉も海も 皆沈黙
黒い雨が降る中 苦しみ逃げまわる人
必死に我が子の名を呼ぶ母親
目の前で大切な人の命が奪われていく
罪なき人々の未来が失われていった
赤く染まる大地
哀しみ一色に埋もれた島
あるのは閑散とした地のみ：

争いは終わり 長い歳月が過ぎた
耳をすませば聞こえてくる
勇ましいエイサー 三線を奏でる人
人々の笑顔
本当に平穏な暮らしが
平和が訪れたのだろうか

六月になると

平和の礎に手をあて 私たちは祈る…
一度傷つけた戦争の爪痕を
元に戻すことはできない

今や沖縄は鳥籠の中の鳥のようだ
鉄条網がまるで国境のように
この地にもう一つのアメリカがある
当たり前でないことが現実にある
違和感を持たない人もいる

「のど元過ぎれば熱さを忘れる」

「戦争が終わると悲惨さを忘れる」

「戦争は恐ろしい」

と口で発しながらも

また同じ過ちをくり返しているのでは
ないだろうか

人の欲によって生まれる争い

同じ人間同士が 憎み合う姿

そんな姿を省みてほしい

忘れてはならない 背けてはいけない

悲惨な歴史を

今 私たちにできること

それは過去の過ちを 次世代へ

伝えていくことだ

そして心に

平和の花を咲かせるのだ

小さな努力が

一人一人の小さな一歩が

やがて平和へ繋がっていくだろう

平和は与えられるものではない
私たちが築いていくものなのだ

過ぎ去った日々の拘束は

やがて来る日の自由になるだろう

過ぎ去った日々の敵は

やがて来る日の友になるだろう

過ぎ去った日々の暗雲は

やがて来る日の陽光となるだろう

海に沈む夕陽を眺めながら

ふと空を見上げると

白い鳩が 大空の彼方へ 飛び去った

沖縄に真の平和が訪れる日へ向けて

白い鳩に 願いをたくして

今日もまた 私は平和を祈る…